

東日本大震災支援考

（山形県米沢市から）

玉木 晃 仁

【はじめに】

日蓮宗山形県教化センター長を担っている以上、山形県管内全寺院の東日本大震災支援活動を網羅することが理想であるが、紙面の関係で不可能である。山形県は、広範囲で多様な文化習慣を擁する。置賜・村山・最上・庄内の地域に四分割でき、布教・伝道形態も異なる。この度の支援も同様である。自坊のある置賜地方の中核都市米沢市にて経験したことを記したい。微力な協力しかできず恐縮している。

平成二三年三月一日午後二時四六分 私の住む米沢市日朝寺から車で一時間三〇分離れている山形市中里 法傳寺（工藤好洋住職）にいた。その日は日蓮宗山形県青年会の総会があり、この日をもって、青年会会長に就任した。総会後の食事を法傳寺様の若奥様と何人かの青年僧が手伝い準備し、私と何人かで執行役員を決め布陣が定まった辺りの出来事であった。

【山形県日蓮宗青年会について】

インターネットで工藤栄遼前会長と連絡を取合うことになる。震災で青年会本部機能を移せない状況であったこと

と山形では慣例で前青年会長が防災委員長に就任することから、全日青の連絡は工藤上人にもたらされ、逐一報告してもらった。

工藤上人からの最初のメールは、①飛鳥玄龍全国日青会防災委員長から、私たち僧侶に専門知識はない。被災地には、安全が確認できてから行って欲しい。救助に当たっている方々の邪魔になるだけでなく、自身が事故に巻き込まれる恐れがある。これは単位日青で徹底して欲しいとのこと。の転送メールだった。②次には被災地に行ける時期になって、飛鳥上人からの転送メールでボランティアの注意点で、防塵マスクと長靴（釘や瓦礫に対応したもの）を必ず用意すること③岩手県で開催予定であった全国日蓮宗青年会全国結集が中止になったこと。恐らく東北地方の宗門行事 勸学院と教化研究会も中止になるだろうとのこと。主立った内容はこの三点である。

四月一五日午前一〇時、山形県青年会新年度幹事会が、山形駅直結のメトロポリタンホテル山形一階喫茶店で開かれた。震災以来、山形県全域でガソリン不足が続いた。車社会の山形県民にとって打撃が大きかった。また自粛ムードは、山形の個人事業者に経済的打撃を与えた。事例として、ある写真館の場合、通年は、卒業式・入学式の時期にあたり集合写真の依頼があるが、式自体が自粛されたために、期待していた売り上げが消滅したそうだ。会社の歓送迎会も殆ど中止。山形県は、被災者の方を多く受け入れたこともあり、楽しいことはしてはいけない雰囲気が県全域を覆った。本来は早い時期、慣例で会長寺院の日朝寺（米沢市）で開催するのだが、ガソリン不足の状況を鑑みて、山形駅に直結したホテルが、幹事が集まりやすい理由で決定した。

喫茶店で、全員珈琲を注文し暫くの沈黙の後、一幹事が私の顔を見て一言「どうしましょうか？」はつきり言って最善な対策などなかった。具体的に青年会で何をすべきかはわからなかった。

幹事会の日程を決める際、佐藤義信副会長から、電話で被災者の方に青年会から義援金捻出の打診があり、現金を用意してもらっていた。金額は二人で三〇万円と決めた。幹事会で承認を得た時点で、山形新聞社・山形放送が運営

している「東日本大震災の為の愛の事業団」に、寄付する段取りができていた。同意を得られ、終了後佐藤上人と山形新聞本社に義援金を渡した。それが、このときでできる山形県日蓮宗青年会の支援の精一杯だった。青年会は、会議のみで解散した。

もちろん山形管区各日蓮宗寺院は独自に支援活動をしていた。紙面の関係で詳細は掲載できないが、無我夢中であつたと思われる。何をして良いのか……

全国日蓮宗青年会から震災復興ボランティアを募るメールと手紙が届いた。この申し出は山形県日蓮宗青年会会員総意として有り難かつた。甚大な被害を被つた福島県・宮城県に隣接しながら、対策を講じられない状況であつた。

【米沢では】

人口約九万人の山形県米沢市は、福島県庁所在地人口約二九万人の福島市から奥羽山脈を隔て車で一時間の距離である。この奥羽山脈が、この震災で大きな意味をなした。

二月・三月は米沢は大雪に悩まされる。毎年一メートルは積もる。しかし福島市には全く雪がない。それが米沢市民にとって羨ましかつたが、この度ばかりは違つた。

原発事故の影響を奥羽山脈が遮つたのである。原発事故が起きた三月、冬は北から南に風が吹く。原発は、米沢から一〇〇キロ南にあるために影響がなかつた。さらに飲料水に対し、事故直後から山形県の行政による拮密な調査がされ、セシウムが確認されなかつた。その結果東日本大震災の年の山形県産米にセシウムが全く含まれなかつた。特産のさくらんぼも大きな影響はなかつた。夏、南から北へ風が吹くが、奥羽山脈が遮り、福島側の福島市・伊達市の放射線量が高くなつた。

そうしたことは、子育て世代の福島市・伊達市のお母さんたちに知られ、お子さんを連れ、米沢を含め置賜地方の遊園施設に多くの方が訪れた。皆さん、簡易計測器を携帯していたのが印象的であった。福島のお子さんたちが、外で遊べないために、肥満傾向児が全国一多いとする報道の影響であろう。*1 お子さんを屋外で遊ばせるためか、福島ナンバーの車を多く見かけるようになった。

震災に対して米沢市の電気・水道等のインフラに影響が少なかった。震災直後、多くの被災者の方が、車で米沢に避難されてきた。米沢市の簡易宿泊施設がある置賜文化センター・米沢市営体育館が解放され、地元文化サークル、体育会の催し・練習等は全て中止となった。駐車場は福島ナンバーの車で溢れた。

お寺で何か支援できないかと市の担当に問合せしたところ、避難された方に物資を受け付けているとのことであった。その中でオニギリの差し入れを選んだ。二升炊きの炊飯器がお寺にあることが理由である。そのとき私が同行すると体育館は被災者で溢れていた。靴を脱いで体育館に入ると、出口近辺には、段ボールが一〇個くらいあり、中には新品の服と下着が入っていた。「ご自由に」と張り紙があった。米沢では購読できない『福島民友新聞』『福島民報新聞』が積み上げられ、自由に被災者の方が持つていけるよう便宜を図っていた。黒板には、不足のものが掲示されたが、二重線もしくは黒板消しで、ほとんど消されていた。

最初二つずつオニギリを包んでいたが、市の方から、若干小さく一つずつ包むこと。他の団体のオニギリの支援があることと継続を望むため、事前に日時の連絡を頂けることとなった。何度かそれに応じた。オニギリは寺族と近所の方と檀家のおばさんとで作った。一回に付き三升の米を炊き、トレーにサララップで包んだオニギリを並べた。それを私と近所の方で体育館まで搬送した。最後の方では、日朝寺のお米が底をついた。となりの日蓮宗寺院 善立寺（鈴木大道住職）にお米を分けて欲しいと申し出たところ、震災支援の為ならと快諾して頂いた。

避難者の方が、米沢に来てから、悪い噂が米沢市民の間で囁かれるようになった。テレビで報道される気の毒な

方々ばかりが避難してきたわけではない。山形県に避難できた方は乗用車を持つ恵まれた方で、気の毒な方々とは異なる。金銭的に余裕がある方も多い。単なるデマなのかもしれないが、よく耳にした。苛々していた気持ちわからないでもないが、市の担当者・ボランティアスタッフに当たる被災者の方も少なからずおられた。支援したつもりだったが、悲しい気持ちになった。

【米沢仏教興道会会員としての活動】

米沢市に一三〇年の歴史を有する仏教会 米沢仏教興道会（熊野龍雄会長）がある。任意団体と社会福祉法人と組織を分けているが、会長と理事長は同一人物の僧侶である。仏教会経営の社会福祉法人の事業規模は、全国最大級である。任意団体としては、花まつり・戦没者供養等の社会啓発活動をしている。傘下には米沢仏教興道青年会がある。^{*2} 米沢市は、震災で亡くなられた方の火葬を受け入れた。午前中は震災で亡くなられた方、午後は米沢市民の予定であったが、行政が臨機応変に対応した。期間は三月一九日から四月二四日までの三六日間 一九〇体の御遺体が茶毘に付された。^{*3}

米沢仏教興道会は、ボランティア活動の一環として、火葬する前に供養した。あくまでも希望された御遺族の方のみで、お布施は頂かない。希望される宗派にも対応した。被災地を含め東北地方は曹洞宗王国であることを再認識させられた。私は二人御回向し、師父が三人御回向させて頂いたので日蓮宗の方は全部で五人、俗名のまま御遺体に供養した。御遺影も位牌もない、参列できるのは多くて二、三人の寂しい供養であったが、感謝して頂いたことが嬉しかった。このようなことは多くの興道会会員僧侶から聞かれた。

【支援考】

様々な活動のなかで、疑問が生じた。まるでボランティア団体ではないか、お題目を弘め祖願達成することが日蓮宗僧侶の本分なのではないかと自問していた。

昨年開催された第三四回東北教区教化研究会議「被災者の心に寄り添う」（平成二八年一〇月六〜七日 仙台国際ホテル）で、第三分科会の座長の役目を頂いたとき、この疑問を呈してみた。復興支援に尽力した御上人たちのお話に頭の下がる思いだった。緊迫しているなか、布教などの段階ではないことを理解できた。聞いた私が悪かった。そのときの講師は宮村通典先生（日蓮宗僧侶・岩手県立大植病院医師）。専門家の話を聞きたい。被災支援をされていた御上人たちの熱意を感じられた。また宮村先生が私の分科会に御臨席して頂いたこと嬉しかった。（以上資料参照）

いつ自分が被災者になってもおかしくない。災害の多い国土に住んでいる。準備の重要さを痛感した。被災地の近くで、被害の少ない地域に住んでいながら、微力な支援しかできなかった。

たくさんさんのデマも聞いた。嫌な話も聞いた。望ましいことではないが、もし同じような震災に遭遇したとき、まず冷静であることを心がけたい。呼吸を整えお題目を唱えてみよう。

*1 『福島民報』（平成二八年一月二四日）「県は二二日、平成二七年度の学校保健統計調査速報を発表した。県内の子ども（昨年四月一日時点で五〜一七歳）で標準体重より二〇%以上重い「肥満傾向児」の占める割合は六〜九歳と一一〜一三歳の七区分で男女ともに前年を下回るなど改善が見られた。（中略）男子は五〜一三歳と一六歳、女子は六〜九歳と一一〜一四歳と一七歳で前年より下回った。男女別で肥満傾向児の割合が最も高かったのは男子が一五歳で一八・一〇%、女子が一〇

歳で一二・六九%だった。二六年度は県内の肥満傾向児の割合が男女合わせて六つの年齢で全国一位だったが、二七年度は一位の年齢がゼロとなった。県は肥満の解消と運動能力向上を目指し二七年度から「ふくしまっ子体力向上総合プロジェクト」を繰り広げている。同事業では、体育の授業の中で運動量を増やす準備体操の導入や運動の楽しさを伝える専門家の派遣、給食での和食の推奨などを繰り広げている（下略）近年は各方面の努力によって改善傾向であるが、震災の年、翌年くらいは連日福島の子供は肥満であると報道され、気になさっているお母さんが多かった。

*2 『米沢仏教興道会 創立百三十周年記念誌』（平成二九年二月）参照 また平成二八年三月三十一日改正社会福祉法が成立、同日公布。平成二九年四月一日施行された。米沢仏教興道会は大きな転換期を迎えようとしている。

*3 米沢市斎場を運営している相田仏光堂様によれば、三月一九日一体 二〇日一体 二一日一体 二二日一体 二三日一体 二四日一体 二五日一体 二六日一体 二七日一体 二八日一体 二九日一体 三〇日一体 三一日一体 四月一日一体 二日一体 三日一体 四日一体 五日一体 六日一体 七日一体 八日一体 九日一体 一〇日一体 一一日一体 一二日一体 一三日一体 一四日一体 一五日一体 一六日一体 一七日一体 一八日一体 一九日一体 二〇日一体 二一日一体 二二日一体 二三日一体 二四日一体 二五日一体 二六日一体 二七日一体 二八日一体 二九日一体 三〇日一体 三一日一体 三月一日一体 三月二日一体 三月三日一体 三月四日一体 三月五日一体 三月六日一体 三月七日一体 三月八日一体 三月九日一体 三月十日一体 三月十一日一体 三月十二日一体 三月十三日一体 三月十四日一体 三月十五日一体 三月十六日一体 三月十七日一体 三月十八日一体 三月十九日一体 三月二十日一体 三月二十一日一体 三月二十二日一体 三月二十三日一体 三月二十四日一体 三月二十五日一体 三月二十六日一体 三月二十七日一体 三月二十八日一体 三月二十九日一体 三月三十日一体 三月三十一日一体 四月一日一体 四月二日一体 四月三日一体 四月四日一体 四月五日一体 四月六日一体 四月七日一体 四月八日一体 四月九日一体 四月十日一体 四月十一日一体 四月十二日一体 四月十三日一体 四月十四日一体 四月十五日一体 四月十六日一体 四月十七日一体 四月十八日一体 四月十九日一体 四月二十日一体 四月二十一日一体 四月二十二日一体 四月二十三日一体 四月二十四日一体 四月二十五日一体 四月二十六日一体 四月二十七日一体 四月二十八日一体 四月二十九日一体 四月三十日一体 五月一日一体 五月二日一体 五月三日一体 五月四日一体 五月五日一体 五月六日一体 五月七日一体 五月八日一体 五月九日一体 五月十日一体 五月十一日一体 五月十二日一体 五月十三日一体 五月十四日一体 五月十五日一体 五月十六日一体 五月十七日一体 五月十八日一体 五月十九日一体 五月二十日一体 五月二十一日一体 五月二十二日一体 五月二十三日一体 五月二十四日一体 五月二十五日一体 五月二十六日一体 五月二十七日一体 五月二十八日一体 五月二十九日一体 五月三十日一体 六月一日一体 六月二日一体 六月三日一体 六月四日一体 六月五日一体 六月六日一体 六月七日一体 六月八日一体 六月九日一体 六月十日一体 六月十一日一体 六月十二日一体 六月十三日一体 六月十四日一体 六月十五日一体 六月十六日一体 六月十七日一体 六月十八日一体 六月十九日一体 六月二十日一体 六月二十一日一体 六月二十二日一体 六月二十三日一体 六月二十四日一体 六月二十五日一体 六月二十六日一体 六月二十七日一体 六月二十八日一体 六月二十九日一体 六月三十日一体 七月一日一体 七月二日一体 七月三日一体 七月四日一体 七月五日一体 七月六日一体 七月七日一体 七月八日一体 七月九日一体 七月十日一体 七月十一日一体 七月十二日一体 七月十三日一体 七月十四日一体 七月十五日一体 七月十六日一体 七月十七日一体 七月十八日一体 七月十九日一体 七月二十日一体 七月二十一日一体 七月二十二日一体 七月二十三日一体 七月二十四日一体 七月二十五日一体 七月二十六日一体 七月二十七日一体 七月二十八日一体 七月二十九日一体 七月三十日一体 八月一日一体 八月二日一体 八月三日一体 八月四日一体 八月五日一体 八月六日一体 八月七日一体 八月八日一体 八月九日一体 八月十日一体 八月十一日一体 八月十二日一体 八月十三日一体 八月十四日一体 八月十五日一体 八月十六日一体 八月十七日一体 八月十八日一体 八月十九日一体 八月二十日一体 八月二十一日一体 八月二十二日一体 八月二十三日一体 八月二十四日一体 八月二十五日一体 八月二十六日一体 八月二十七日一体 八月二十八日一体 八月二十九日一体 八月三十日一体 九月一日一体 九月二日一体 九月三日一体 九月四日一体 九月五日一体 九月六日一体 九月七日一体 九月八日一体 九月九日一体 九月十日一体 九月十一日一体 九月十二日一体 九月十三日一体 九月十四日一体 九月十五日一体 九月十六日一体 九月十七日一体 九月十八日一体 九月十九日一体 九月二十日一体 九月二十一日一体 九月二十二日一体 九月二十三日一体 九月二十四日一体 九月二十五日一体 九月二十六日一体 九月二十七日一体 九月二十八日一体 九月二十九日一体 九月三十日一体 十月一日一体 十月二日一体 十月三日一体 十月四日一体 十月五日一体 十月六日一体 十月七日一体 十月八日一体 十月九日一体 十月十日一体 十月十一日一体 十月十二日一体 十月十三日一体 十月十四日一体 十月十五日一体 十月十六日一体 十月十七日一体 十月十八日一体 十月十九日一体 十月二十日一体 十月二十一日一体 十月二十二日一体 十月二十三日一体 十月二十四日一体 十月二十五日一体 十月二十六日一体 十月二十七日一体 十月二十八日一体 十月二十九日一体 十月三十日一体 十一月一日一体 十一月二日一体 十一月三日一体 十一月四日一体 十一月五日一体 十一月六日一体 十一月七日一体 十一月八日一体 十一月九日一体 十一月十日一体 十一月十一日一体 十一月十二日一体 十一月十三日一体 十一月十四日一体 十一月十五日一体 十一月十六日一体 十一月十七日一体 十一月十八日一体 十一月十九日一体 十一月二十日一体 十一月二十一日一体 十一月二十二日一体 十一月二十三日一体 十一月二十四日一体 十一月二十五日一体 十一月二十六日一体 十一月二十七日一体 十一月二十八日一体 十一月二十九日一体 十一月三十日一体 十二月一日一体 十二月二日一体 十二月三日一体 十二月四日一体 十二月五日一体 十二月六日一体 十二月七日一体 十二月八日一体 十二月九日一体 十二月十日一体 十二月十一日一体 十二月十二日一体 十二月十三日一体 十二月十四日一体 十二月十五日一体 十二月十六日一体 十二月十七日一体 十二月十八日一体 十二月十九日一体 十二月二十日一体 十二月二十一日一体 十二月二十二日一体 十二月二十三日一体 十二月二十四日一体 十二月二十五日一体 十二月二十六日一体 十二月二十七日一体 十二月二十八日一体 十二月二十九日一体 十二月三十日一体

相田仏光堂様の協力に紙面にて御礼申し上げます。米沢市の支援は、『東日本大震災への対応について 報告書』（米沢市災害対策本部 平成二五年三月一五日）（国会図書館デジタルコレクション所蔵）があり紹介いたします。米沢市災害対策本部は平成二五年三月三日をもって解散。

資料

第3分科会「講義を聞いて次世代に伝えたいこと」 座長発表原稿

第34回東北教研「被災者の心に寄り添う」平成28年10月5日～6日 仙台国際ホテル
東北六県から11名 宮村通典先生（本宗僧侶・岩手県立大槌病院医師）御臨席

被災された方・実際に支援をされた方々ばかりでしたので、宮村先生の講義を熱心に聴講されているようでした。最初に自己紹介と感想を述べて頂きました。講義のなかで、支援には、TPOがあり、被災の状況を継時的にとらえる必要がある。具体的に4つの時期（急性期1～3ヶ月 亜急性期3～12ヶ月 慢性期1～3年 復興期3年～）があることを、震災発生時に知っていれば良かったという感想が多かったです。後は被災経験・実際になさった支援活動と関連した紹介をなさった方が多かったです。

皆さんのお話を聞いて気付いたことがありました。日蓮聖人・法華経等の言葉が、全く出てこなかったことです。座長として、被災地で布教活動を行ったかを支援された方々に質問しました。心に響いた発言を紹介いたします

N上人 衣・袈裟の着用はできない。布教活動と見なされて避難所に入れてもらえない。追善供養は、ある程度の時間がないと受け入れられない。100日くらいで漸次始まった。布教活動ということ自体、現場を見ていない人がいうことである。

T上人 福島第一原発から近いお寺で、放射能の影響で避難所・避難場所が転々と変化する状態だった。改良服さえ持ち出すことができず布教する余裕はなかった。物資搬入と移動搬入の支援を行った。

S上人 支援活動で石巻に作務衣で入ったら、罵倒され怖い経験をした。また御遺体が安置しているグランディで一読したいと申し出たら、僧侶の格好だからと拒否された。宗教自体が悪と決めつけられているようで辛かった。情報が欲しかった。出来ることの正解は今でもわからない。

ここまでで、宗教の話は出来ないこと。支援の仕方・取りまとめが必要であることが確認できました。

次世代に伝えることについて

ある御上人 震災の際、支援を子供に手伝わせた。その影響なのかもしれない。2～3年経ってからテレビで震災当時の映像がひっきりなしに流れたとき、子供が、その映像を見て嘔吐した。経験者と傍観者とは全く違う。

N上人 高知に所用で行った。ある高知の方に、「震災復興してよかったね。」と言われた。報道されなくなって、復興したものと思われているようである。関心の持続を考えるべき。ちなみに高知県は、震災時に福島県の妊婦受入れを積極的に支援した自治体である。

宮村先生 事実を形に残すことが重要である。あとは後世に判断を任せる。

以上、休憩なし時間いっぱい議論がなされました。あくまでも一端を紹介したにすぎません。座長として拙い部分も多々あったと思います。最後に第三分科会参加の皆さまに感謝いたします。